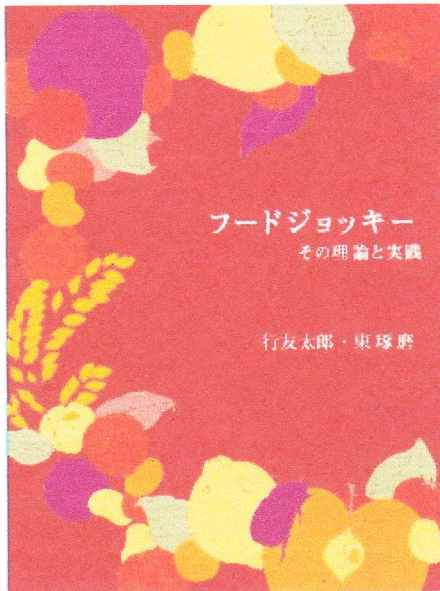


カセットコンロをターンテーブルのごとくあやつり、
とめどなく料理を作り、
食らい、語り続け、楽しみ、片付け、
厚かましいまで人々をもてなす、

歓待装置=フードジョッキー

いま・ここ広島から登場！

2009年夏、
真っ盛り
レシピ本



行友太郎(シャリバリ地下大学学長)

東 琢磨(音楽・文化批評)

フードジョッキー

その理論と実践 定価¥1200+税

“フードジョッキー”という言葉を生んだのは、行友太郎である。「フードジョッキーとは、食物を騎手が馬を乗りこなすように使用する人のこと。一般的に、フードジョッキーは食物の選択を行い、料理方法を決定し、料理を実行することで、表現活動や空間演出を行う」ことの総称。

自分の食欲を現実と見なせ!

快楽主義か野蛮か、

われわれはそのどちらでもある。

メールが生まれた
瞬間、感覚が
同時にヒロシマ
マシンの
論も同時刊行。

東琢磨・高雄きくえ編

“平和構築”ってなんですか？

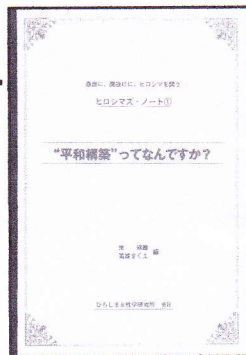
愚直に、間抜けに、ヒロシマを問う

ヒロシマズ・ノート①

¥500

広島には、「平和」をめぐる言葉が溢れ、平和教育・平和運動・平和行政がさかんであるかのように思われている。はたして、そうか？ ここで問題になるのは、その一方で、平和教育が危機にさらされているとか、そういったこともあるだろう。しかし、今回、私たちは、ちょっとより複雑とも思える状況に対しての違和感をコトバにしてみた。メールやメーリングリストでの議論の可能性を、もう一度、紙媒体に問うということは、実のところは、もう一度、紙媒体の可能性を問うことになるし、現在のことばを作る空間という意味でのメディアを問うことにもなるはずだ。(東琢磨・あとがきより)

*本冊子は、書店では入手できません。右記へ。



●ご注文・お問合せは

ひろしま女性学研究所

〒730-0001

広島市中区白島北町16-25

TEL 082-211-0266

fax 082-211-1761

kazokusha@enjoy.ne.jp

書店でご注文の場合
地方小出版流通センター扱い